

令和6年度第1回「基地周辺環境対策推進事業」有機フッ素化合物汚染源調査
に係る専門家会議議事概要

1. 日 時：令和6年7月31日（水）13時30分～16時00分

2. 場 所： 沖縄県市町村会館 4階 第2、第3会議室

3. 出席者：

江種委員、黒田委員、駒井委員、平田委員、柴田委員（オンライン）
沖縄県環境保全課、沖縄県衛生環境研究所
応用地質株式会社、沖縄環境保全研究所（事務局）

4. 議事内容：

(1) PFOS等の定期モニタリング結果

(2) 汚染源検討の経緯と方針

事務局より、PFOS等の濃度分布、経時変化等について報告。地下水の流れが普天間飛行場より上流に位置する湧水等より下流側に位置する湧水等の濃度が高い状況が継続。濃度変動は小さく、概ね一定の濃度で継続して検出されていると説明。

（委員からの主な意見）

- ✓ 汚染源が泡消火剤だというのは間違いないと考えるが、泡消火剤の製品情報を集めて汚染源の原体がどういうものか確認する必要がある。
- ✓ 米国の最近の論文では、飛行場周辺の土壌中にPFASの誘導体が長く残り、それらが分解されてPFOSや6:2FTS等が出続ける様子も報告されており、製品情報や環境中の動態を調べていく必要がある。
- ✓ PFOSとPFOAの両方を足して50ng/Lが暫定値とされているので、最近は各自治体等が両方を足した数値を出しているが、PFOSとPFOAの発生源はそれぞれ違うので、それぞれがどのくらいなのか示すべき。
- ✓ これだけの（観測）データが出ているのは日本ではあまりないので、この事業はとても貴重。
- ✓ シミュレーションモデルで水位が合っていない。計算値が観測値に近寄るようなモデルを作らないといけない。
- ✓ 普天間飛行場全体を対象にシミュレーションをすると（水位）が合わな

い部分がどうしても出てくると思うので、まずは、C 流域など、細かく分けてやってみたらどうか。

- ✓ 解析者にできるだけ詳しいデータを提供して、できるだけ狭い範囲でやってみる必要がある。

(3) 令和6年度調査の実施計画

事務局より、令和6年度も水質、水位、地質等のデータを蓄積し、污染源メカニズムの検討を行うこと、ボーリング候補地点等について説明。

(委員からの主な意見)

- ✓ それぞれの流域で特徴を掴みつつある。今年のボーリング調査等で更に詳しいデータを蓄積することで、それぞれの流域を通ってくる湧水で (PFOS 等) の濃度が降雨に影響する理由等が見えてくるのではないか。
- ✓ 環境中の動態でどういう影響があるのかということ調べるためには、土壌中の4物質以外の物質について調べると貴重なデータになる。
- ✓ ボーリングの位置についてはよい点を狙っていると思う。

(4) 有機フッ素化合物汚染に関する動向など

事務局より、米国での飲料水規制値として4月に4 ng/L として確定されたこと、食品安全委員会では食品や飲料水の耐要1日摂取量をPFOS・PFOAとも20ng/体重kg/日と設定したこと、国内の汚染事例として岡山県吉備中央町や神奈川県引地川の事例を説明。

(委員からの主な意見)

- ✓ ここ2~3年国内ではPFAS研究が進んでおり、水だけでなく、食品や大気等、研究が進んでいるが特に注目されるのは、排水と焼却等の廃棄物関連である。いろんな排出源が指摘されつつあるので取扱が難しい。
- ✓ 一般的な土壌でも数ナノグラムは入っているので、バックグラウンドとしてPFASが存在するというのは認識しつつ、普天間基地の周りで極端に高いところは人為的なものと考え、発生源を特定する必要がある。